

2016年度商学部専門科目「経営史」

本授業のガイダンス、企業経営の「危機」と「歴史を学ぶ意味」について

本日の目標

本授業の狙い、内容、評価方法等を説明すること、そして現在の企業経営をめぐる「危機」から、歴史を学ぶ意義をお話して、次回以降の講義へのつなぎとすること。

講義内容

1 本講義の狙い/2 本日の授業内容/3 今期の経営史の授業計画案/4 テキスト/5 評価方法/6 参考文献

1 本講義の狙い

今年度のシラバスより

「『動かない』過去の事実を、現在の問題意識でもって分析し、今後の歩みを検討する際の材料とします。本授業では、企業経営の歴史を主軸に検討していきます。」(大阪市立大学商学部, 2016, 80頁)

(1)「過去と現在と未来の対話」(カー)に基づく企業経営の歴史についての議論

2 本日の授業内容

2.1 キーワード/2.2 「危機の時代」の企業経営か、企業経営の「危機」か/2.3 「危機」とは何か/2.4 何が「危機」なのか/2.5 改めて「なぜいま、歴史なのか」

2.1 キーワード

危機/企業経営/外部条件の悪化/歴史

2.2 「危機の時代」の企業経営か、企業経営の「危機」の時代か

第87回日本経営学会大会での報告について

統一論題「経営学の学問性を問う」のサブテーマ「②危機の時代の企業経営」

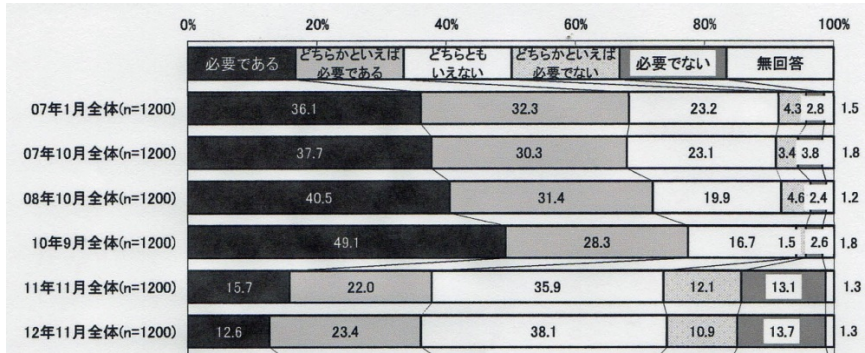
プログラム委員会からの要請

「第1の柱が国・地域という空間的異同に照射したテーマであるとするれば、第2の柱は、時間軸的視点から、昨今の「危機(crisis)の時代」にスポットライトを当てようとするものである。ここ数年、世界の企業経営はさまざまな「危機」に瀕しているとされ、アメリカのサブプライムローン問題に端を発する世界金融危機、欧州通貨の価値が崩壊するユーロ危機、さらには東日本大震災に伴う原発問題に端を発するエネルギー危機、タイの洪水被害にみられるような自然災害に伴う危機など、枚挙に暇がない。こうしたさまざまな危機の時代に、個々の企業はどのような対応をなし、また経営学は、こうした危機に対しどういった対策を導出できるのか。これらの点について検討しようとするのが第2の柱である」(日本経営学会, 2013)

現在は、どのような時代なのか、との発想…歴史的な観点からの考察の要求

しかし、「昨今の『危機(crisis)の時代』とあるように、(2)「昨今」は「危機の時代」なのかうまくいっている企業は存在する

「外部条件の悪化」による「リスク」の高まりであって、「危機の時代」ではない



出所) 日本原子力文化振興財団 (2013), 91 頁。

原子力発電再稼働に執着, イノベーションを起こさない

②エレクトロニクス産業におけるリストラの連続

電力会社とは異なってイノベーションを起こそうとしての経営行動あり, しかし, グローバル競争で敗退してリストラ

⇒企業経営に対する冷やかな日本社会の反応 (資料 3)

資料 3

「私, 川野さんにはいったんです。そんなことするの, やめたらって。でも, 彼女はどうしても, 真藤部長に恨みをぶつきたいって, そういいました。だったら, それもいいかなって」/真剣な眼差しが, 不意に兎玉を射た。思わず, 背筋を伸ばしたくなるような, 鋭さだ。/「私がそう思ったのは, そうすることで真藤部長に銀行という組織で働くということは何なのか, 考えてもらいたかったからです。真藤さんは, 自分の名誉だかプライドだか, あるいは出世だかのために, 川野さんを貶めた。たったひとりの人間の自尊心のために, 同じ銀行で働いている, 家族も将来もある人間がだめになっていく。いつから銀行はそんな職場になったんでしょうか。出世のために人を蹴落としてなんとも思わない。そんな人が経営する銀行に, 社会の役に立つことができるんでしょうか?私がいいたいのは, そういうことです。この銀行には大勢のひとが働いています。出世や銀行の利益のために, そのひとだけでなく家族の幸せまで奪う, そんな組織にして欲しくない。そう思ったから, あの彼岸花, 一度だけ送ったらっていいました。もしそれで真藤さんが気づいてくれたら, もう二度と, 彼女は過去を振り返らない。そう私と約束したんです」/兎玉ははっとしたまま, 瞬きすら忘れて相手の言葉をきいた。中窪もまた啞然とした表情で彼女を凝視している。/ふと, 兎玉は彼女がつけているネームプレートを見て, はっとなった。花咲。“こいつか—”(池井戸, 2011, 327-328 頁)。

…(5)日本企業に対する信頼の揺らぎ

→存在が危ぶまれる⇒だからこそその企業経営の「危機」

※なぜこうなってしまったのか, を探る

2.5 改めて「なぜ、今、歴史なのか」

歴史について

編年史ではだめ, いつ何があったのかを知るだけならば「学ぶ」意味はない

過去の事例から教訓を得る

「現在」までのプロセスを丹念に探ることで, なぜ「現在」のようになったのかをつかむ

→因果関係の把握

◎先の見えない現在において、(6)変化の歴史的意味をつかむ(資料 4)

資料 4

この大きな変化の流れのなかに日々身を委ねていると、その変化の大きさ、速さ、意味は必ずしも認識できない。それは、たとえば高速道路に乗ると、やがて自分の移動距離がよく判らなくなるのと似ている。流れから一歩離れてみると、自分の位置を確かめ、自分と人の走って来た速度を認識できる。そのことがあって初めて次の行動を定められよう。我々が社会をみるときの歴史的思考の意味と役割もそこにあることは、言うまでもあるまい。…生じつつある変化の歴史的意味を理解し、逃れることのできない歴史の流れの中でわれわれは何を成すべきか、その認識を得るための一助となるよう努めること、それが「講義」の役割だと思ふのである。(大河内、2001、序 iii -iv 頁)

3 今期の経営史の授業計画案

回数	月	日	曜日	時限	内容	備考
1	10	7	金	4	ガイダンス	-
2	10	13	金	4	歴史の方法	テキスト第1章
3	10	21	金	4	歴史の方法	テキスト第1章
4	10	28	金	4	イギリス自立分散型生産システム	テキスト第2章
5	11	8	火	4	イギリス自立分散型生産システム	テキスト第2章
6	11	11	金	4	老舗企業についてのご講演	石田老舗石田宏治先生
7	11	18	金	4	アメリカ垂直統合型生産システム	テキスト第3章
8	11	25	金	4	アメリカ垂直統合型生産システム	テキスト第3章
9	12	2	金	4	日本柔軟統合型生産システム	テキスト第4章
10	12	9	金	4	日本柔軟統合型生産システム	テキスト第4章
11	12	16	金	4	電子部品産業についてのご講演	元村田製作所大島幸男先生
12	1	17	火	4	新興国分散型生産システム, レポート提出	テキスト第5章
13	1	20	金	4	次代の生産システム	テキスト第6章
14	1	27	金	4	レポート発表会	-

4 テキスト

中瀬哲史 (2016) 『エッセンシャルズ経営史』 中央経済社

10月11日以降に生協教科書販売会場で配置されます。ご購入ください。

(サブテキスト)

E・H・カー (1962) 『歴史とは何か』 岩波新書/溪内謙 (1995) 『現代史を学ぶ』 岩波新書/大河内暁男 (1991) 『経営史講義』 東京大学出版会/宮本又郎・岡部桂史・平野恭平 (2014) 『1からの経営史』 碩学舎

(レポートテキスト)

白井隆一郎(1992)『コーヒーが廻り世界史が廻る』中公新書

藻谷浩介・NHK 広島取材班(2013)『里山資本主義』角川 one テーマ 21

丸川知雄(2013)『チャイニーズ・ドリーム』ちくま新書

5 評価方法

出席点(10点)、レポート(40点)、試験(50点)等を実施

※レポートについて

2019年1月17日火曜日 17時までに、学生サポートセンターに提出

分量：要約400字+本文4000字(図表込み)

1月27日金曜日の授業時に優秀レポート発表会

6 参考文献

大阪市立大学商学部(2016)『講義概要 平成28年度(2016年度版)』/日本経営学会(2013)

「日本経営学会第87回大会論題趣旨」<http://www.keiei-gakkai.jp/schedule/>, 2016/10/06/

帝国書院(2014)『最新世界史図説 タペストリー』/日本原子力文化振興財団(2013)『平成24年

度原子力利用に関する世論調査の結果について』

<http://www.aec.go.jp/jicst/NC/iinkai/teirei/siryoy2013/siryoy23/siryoy1.pdf>, 2016/10/06/

池井戸潤(2011)『不祥事』講談社文庫